

- d) 側頭葉てんかんは、発作後のもうろう状態を特徴とする。  
e) 抗てんかん薬は神経系の過剰抑制ないし過剰興奮の緩和を目的としている。

11. てんかんの大発作への対処法や、てんかん看護で、誤っているものを2つ選んで下さい。

- a) 舌を噛むことによる窒息を防ぐため、口腔内にタオルなどを入れる。  
b) 嘔吐による誤嚥や窒息を防ぐため、ゆっくり仰臥位にさせる。  
c) 卒倒や転倒による外傷を防ぐため、日頃から環境の整備に留意する。  
d) 発作の誘因となる過労や睡眠不足などを避けるよう指導する。  
e) 抗てんかん薬のフェニトインを服用している患者には、口腔保健の指導が重要である。

12. 神経症の症状について、誤っているものを2つ選んで下さい。

- a) 神経症では、偽痴呆の症状を呈する場合がある。  
b) 心気症の患者は、身体症状に無関心となりやすい。  
c) 不安神経症(パニック障害)では、過呼吸発作が起こることがよくある。  
d) 神経症には原因となる出来事があり、本人はそれを自覚している。  
e) ヒステリー(解離性障害)の患者は、もうろう状態になることがある。

13. アルコール依存症と嗜癖(アディクション)について、下線①～⑦に当てはまる語を入れて下さい。

- 1) アルコール依存症の患者は、アルコール飲用を中止した2,3日後から約1週間にわたる①  
として、②せん妄をきたすことがよくある。  
2) 長期にわたる大量飲酒や栄養障害によって痴呆(認知症)が生じる③症候群の主症状は、  
④障害、失見当識、⑤の3つである。  
3) ⑥は、家族間の葛藤を背景として、主に思春期の女性に起こる病気であり、拒食と⑦  
を典型的な食行動パターンとするアディクションである。

14. 精神科薬物療法について、下線①～④に当てはまる語を入れて下さい(同じ番号は同じ語です)。

- 1) 抗精神病薬は、主に統合失調症の治療に使われるが、①性疾患にも効果を発揮する。よく使  
われる抗精神病薬としては、②に代表されるフェノチアジン系薬物と③  
に代表されるブチロフェノン系薬物がある。  
2) 抗うつ薬としては、④系のイミプラミン、アミトプチリン、非④系のマプロチン、  
ミアンセリン等がよく用いられる。抗躁薬の⑤を与薬する場合は、血中濃度の定  
期的な検査を必要とする。

次頁あり